
四神伝×少年陰陽師 作品集

春野キリ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

四神伝×少年陰陽師 作品集

【Nコード】

N9209V

【作者名】

春野キリ

【あらすじ】

従えし者、属性、存在も違う。だが、十二人という人数は同じ。天上界の十二天将と、式神の十二神将。彼らが過去と現在を舞台に今、それぞれの思いを秘めて出会います！

十二天将と十二神将の違い（前書き）

『四神伝』 × 『少年陰陽師』のコラボスタート！

十二天将と十二神将の違い

ツカサ「なあ、おい。なんで無関係の私達まで出てるんだよっ」

沓馬「無関係だから意味があるんだよ（黒笑）」

海斗「笑うんじゃないよ！」

グレン「それで？何かすればいいのかわかんないよ？」

沓馬「まあ一時はいろいろと話していくから、その進行を頼もつて」

ガレル「それは分かったけどよ……なんで俺まで？ここはタケルが来るはずだよ」

沓馬「ああ。君は回復担当だから」

ツカサ「つまりここで血が流されると」

海斗「現にここに、異常なまでに出血する奴がいるからなっ」

ユリハ「てーん」

沓馬「まあ、やる前に。ゲストを紹介しないと」

ツカサ「……分かった、やればいいんだろっ」

グレン「『少年陰陽師』シリーズ、主人公の安部昌浩だ」あへのまさひろ

昌浩「あー、えーと。初めまして、安部昌浩といます」

海斗「昌浩は、平安時代で有名な安部清明の孫でもある」

昌浩「孫、言うな!」

ユリハ「じゃあさあ。昌浩君って、平安の子?」

沓馬「そうだよ。まあ、本編は転生パロが基本になるから。平安は

過去になるね。過去になると、俺達の前世がかかわるけど」

ツカサ「けどやっぱ、孫なんだろ」

海斗「ああ、孫だ」

昌浩「だから……孫言うなああああ!」

グレン「うるさっ」

海斗「清明の孫って言われるのが、すっげえ嫌いなんだよ。あいつ」

ガレル「じゃあ、なぜ言っただっ」

海斗「なぜか言いたくなる」

?「まっ、そうだろうな」

昌浩「もっくん!」

グレン「『少年陰陽師』シリーズで昌浩といつもいる物の怪、もっくん！」

もっくん「物の怪言うな！」

海斗「いや、物の怪だからもっくんだろっ」

沓馬「ユリハちゃん……先に言っておくけど。もっくんのあの姿は、ある神将が変化した姿だからね？」

ユリハ「……ペい！」

ツカサ「あ！今考えたな!？」

もっくん「俺を食べてもまずいからな！」 昌浩の後ろに隠れる

ユリハ「(ジー)」

海斗「物の怪の姿だとあぶねえから、元の姿に戻ってるよ」

もっくん「その方が良さそうだな！」

グレン「『少年陰陽師』シリーズで、十二神将の一人である？蛇こくれんと紅蓮」

紅蓮「人間に食われるなんて、たまったもんじゃないっ」

海斗「いや、人間じゃないし。あいつ」

ガレル「エナジスト」

沓馬「オルクラト使いで」

グレン「俺の恋人」

ツカサ「最近変身ツールにまで手を出そうとする、怪人アタックベントだ！でもってリア充発言してんじゃねえ、エナジストのグレ

ン！！」

グレン「事実だ！」

ツカサ「コロス！」

沓馬「黙ろうか」 『毒』発動

ツカサ・グレン「ぐはっ！？」

海斗「……馬鹿だろ、あの二人っ」

ガレル「誰が回復させるとでも……っ！」

昌浩「どんまいっ」

〜

沓馬「で、まあ。3人行動不能になってるけど、話は進めようか」
海斗・紅蓮「誰の所為だよ、誰のっ」
沓馬「（無視）じゃあ、一番最初は、これから」

ユリハ「十二天将と十二神将の違いについてー！」

）
）
）

佑希「天将と神将の違いは、地位も属性も異なっている」

ツカサ「（復活）つーか、名前からして違うんじゃない？」

翼乃「まあ、確かにそうだがな。名前にもそれぞれ意味がある」

佑希「天将と神将の地位は、天将の方が遥かに上だ。というより、天将は神そのものといっても容易くない」

昌浩「じゃあ、紅蓮達より強いって事？」

佑希「ああ。十二天将で一番弱いのは太常と六合だが、十二神将よりは強い」

沓馬「そんな風には見えないけどな」

海斗「黙れ！」

翼乃・紅蓮「お前もな」

佑希「仕えている主としてはだ。十二天将は天上界の長、てんじょうおうついで天上皇帝。
十二神将は陰陽師、あへのせいめい安部清明」

翼乃「それに加え、十二天将の四神には妖あやかしという妖怪を従えている」
沓馬「残りの十二天将にも従えてくれるけど、四神の誰かと同じ属性を持つている妖しかできないから」

海斗「俺と沓馬、前世で言うのなら天后と？蛇は、翼乃または前世である朱雀が従えた妖にしか命令できない」
紅蓮「ほう」

沓馬「あ。まだ僕達の紹介、言っただけだった」

翼乃「この際だから、属性まで言うか。俺は神翼乃しんよくの。前世は十二天将で四神の一人、『最強』の称号を持つ朱雀すざく。属性は、火・炎・闇・光・無だ」

沓馬「俺は河野沓馬かわのむつまつ。前世は十二天将の一人、？蛇とつた。属性は、火と光」

海斗「俺は拍摩海斗はくまかいと。前世は十二天将の一人、天后てんこう。属性は、炎と光だ」

佑希「高岑佑希たかみねゆうき。前世は十二天将の一人、天空てんくう。属性は、地と光だ」
翼乃「最大の違いといえば、属性だな」

佑希「天将の属性は細かく分けられ、地・水・風・火・木・氷・雷・炎・闇・光・無になる。十二天将は全員光は持つていて、後はそれぞれ一つずつ。ただし四神は、地木・水氷・風雷・火炎を持つ」

翼乃「で、俺は朱雀だから火と炎の二つを持つている」
昌浩「あれ。じゃあ、なんで闇と無を持つているんだ？」

佑希「ここからはお前が話すか、翼乃」

翼乃「ああ。朱雀には、“罪の鎖”という物を受け継がれていく伝承がある。“罪の鎖”とは罪の重さ。朱雀に生まれし者は、戦いな

がら悲しみに満ちていく……それが闇となる。闇は朱雀にとって、俺にとつてなくてはならない属性だ」

紅蓮「なるほど。闇は己の一部か」

翼乃「そうだな。無は……これは朱雀じゃなくて、俺自身の属性だ」

昌浩「え、前世じゃなくて？」

翼乃「無は、俺の表であり裏。無は全てを拒絶、消す事。無は

俺と羅木^{ろぎ}亜を繋げるもの。“無”なくして、今の俺は存在しない」

ジュン「闇が己なら、無も己なりだな」

翼乃「いきなり出てくるな」 回し蹴り

ジュン「いでっ！」

紅蓮「おー、鮮やかだなー」

昌浩「ていうか、蹴っていいわけ!？」

沓馬「ああ、大丈夫。ジュンは翼乃ちゃん限定でMだから(笑)」

ジュン「まだ何もしてないだろ！」

翼乃「近づくのが悪い」 踏み続けながら

ジュン「いやそれがあっ、俺が悪かったっ！」

グレン「(復活)あれが照れ隠しっていうのが不思議だよなっ」

昌浩「蹴りが！！？」

海斗「蹴りというより、あいつがジュン兄ちゃんへの攻撃がだっ」

沓馬「まあ、翼乃ちゃんなりの愛情表現……かな？」

ツカサ「それを避けようとせず全部受け止めている変態も変態だかな」

佑希「違うといえばだ。天将は転生し来世へと受け継がれていつて
る。逆に神将は転生しなくても生きていられる」

沓馬「死んだら転生するけどねー」

海斗「お前黙れよ」

佑希「お前もお前で、一々突っかかるなっ」

ガレル「まあ。本編じゃあ、その転生が関わってくるらしいから」

翼乃「それは本編前にな。あと、天将全員に武器があるな」

佑希「とはいっても、前世からの引継ぎは四神と黄竜だけで、残りの天将は現世である俺達に合わせた物だ」

翼乃「……けど、なー」

沓馬「そうだよね……」

海斗「ああ……」

火炎組「トンファーは……………」

佑希「文句あのかよおおおおお!!」 トンファー装備

昌浩「あでも、確かにトンファーって、天空には似合わなそうっ」

紅蓮「……ああ、そうだな」 想像してしまった

ジユン「若返りでも出来ればいいけどな？」

翼乃「やめて。神将の天空が若返るとか……安倍清明だけで十分だ
っ」 軽傷

紅蓮「それには同感だ！」

ツカサ「いや、その前に翼乃の怪我に何か言えよ!？」

ガレル「誰が治すと思ってんだよ、誰がっ!」

ユリハ「おかん!」

ガレル「ギヤアアアアア!」

沓馬「くっ」 重傷

海斗「あれ、金属だよな……っ」 重傷
グレン「そのはずだろ？」

〃
〃
〃

佑希「まあ、後は個人個人だろう」
ツカサ「という訳で次回から、十二天将と十二神将を4人ずつ招いての前後半をやる！」
グレン「一組目は、？蛇・天后・太常・六合だ！」

佑希「……おい。その次がやばいと思うのは俺だけか!？」

ジユン「あー……そうだな」

翼乃「その前に一組目の心配した方がいいと思うぞ?」

海斗「暗黒大王とオドオドお嬢様」

沓馬「激ブラコンと猫狙われ(黒笑)」

海斗「(ブチッ)」

ガレル「自分から言い出したたる!」

コブラ! カメ! ワニ! ブラカ〜ワニ〜!!

スキヤニングチャージ!!!

000ブラカワニ「はあああああ！」

ジュン・沓馬・海斗・ツカサ・グレン「「「「「ギヤアアアアアアア
!」「」「」「」

ユリハ「あるえ〜!？」 巻き込まれ

(以下生き残ったメンバー)

昌浩「あれ何!？」

翼乃「現在映画上映中に出てくる、000ブラカワニコンボだ」

ガレル「いやいやいや！ それはわかるけど、誰がなってるんだ！
？」

翼乃「んじゃまたな」

ガレル「聞けよ!？」

佑希「あいつら、巻き込まれた奴等を気にしねえのかよっ」

もっくん「きにしねえんじゃねえの？」 危険人物が気絶したから
ユリハ

翼乃「ああ。もつとも違いは、ある二人を除いて十二天将はそれぞれ恋人同士だ」

もつくん「十二神将で言ったら、朱雀と天一だもんなあ」

翼乃「そのあたりも、次回からな」

ガレル「あいつら。何気に息が合っていない？」

佑希「まあ、十二天将与十二神将で最強で属性が同じだしな」

昌浩「それだけじゃないと思うんだけど……」

十二天将と十二神将の違い（後書き）

） 後書きというおまけ劇場 ）

佑希「そっぴや、ジユンの事言ってなかつたな？」

翼乃「えっ……次回でもよくな？」

佑希「お前、それでもあれの恋人かつ」

もっくん「お前も酷いけどな」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9209v/>

四神伝×少年陰陽師 作品集

2011年10月8日23時11分発行